

# 西藤原の女

## ☆ 西藤原駅

西藤原駅はこじんまりとした駅舎で、いかにも終点っぽい。駅を管理しているのは委託を受けていると思われるオバチャンである。切符を記念に欲しいと申告したところ、オバチャンは惜しげもなくなんと我々全員の分の切符をくれた。ありがとうオバちゃん！

このあたりローカルっぽくて良いね。

駅を出ると、右に雑貨屋であろう商家、正面に自転車置き場、そしてディスクカバージャパン（死語）の頃に立てられたと思われる古びた観光看板などが、旅の我々を暖かく迎え入れてくれる。

ただの田舎の駅前だ。

我々の目を引いたのは、置いてある自転車がいずれも鍵が掛けられていないこと。チョイ借りなんて無いんだろうなあ。 いいですよ、地方って。

非行とかも無いんだろうなあ。

駅を出て5 mで藤原町郷土資料館である。残念ながら休館日だったようだが、どうやら毎日が休館日のようである。

だって納屋なんだもん。錠前の掛けてある木戸の間から中を覗くと、農耕具やら草履やらが放置して

う～ん、これを郷土資料館と呼ぶ！

のんびりしてて良いですね♪



隙あ

↑ これが郷土資料館！

## ☆ 員弁郡藤原町大貝戸の風景

駅を離れ歩き出す。この村は静寂そのものだ。我々の はしゃぐ声と、遠くで木を伐る音が四方の山々に吸い込まれる。

しいい～ん

幅 5 m、この町のメインストリートに出ると、魚屋と寿司屋が。魚屋のおやじが即、寿司を握り始めることは明らかだ。暖簾には「立ち食い寿司」とある。こんなのにびりした村で？と疑問に思ったが、店が狭くて単に椅子が置けないだけでは。多分ほとんどの需要は出前なのだろう。

都会に出ていた娘が帰ってきた時など特別にお寿司を取るのだろう。

こども達は、大はしゃぎだ。

ああ、外は寒いけど、家は暖かいなあ。

## ☆ 鳴谷神社

駅から歩くこと 15 分、鳴谷神社だ。鳥居をくぐると、そこには 2 対の狛犬の代わりにお猿さんの石像が。

「見ざる言わざる聞かざる」

近代若者の意識の根底に流れる三無主義の原点とも言える『山王さんのお猿』だそう。われわれは新たな知識を身につけた。

神社の横から鳴谷滝への石段を登る。皆、無口になって真剣な登山だった。

所用 5 分で鳴谷滝にたどりつく。滝は高さ 10 m ほど。堅そうな岩盤の上から白糸を引いたように落ちるか細い滝だ。いかにも冷たそうな水。

写真撮影もそこそこに、簡素な休憩所に引き上げ、富田駅で購入した握り飯を食う。汗が冷えて寒い。ひとりだとちょっと寂しい光景だな。

麓にジャンボ（死語）民宿があり、その横に藤原町自然博物館があった。

ここは先の郷土資料館とは違い、開いていたし、ちゃんと展示物もあった。

驚いたことに管理人もいた。

記帳によると平成 3 年の入館者は、我々で 3 組目のようだ。

外では雪が舞っている。さむう……。



← 神社には猿の石像があるもので、と藤原町大貝戸の子供たちは信じ込んでいた。

彼らが町を出て狛犬や権舟を見たとこのジョークを考慮すると、教育上、問題と云えるだろう。

## ☆ なぞの犬出現

私は仕事柄（理科の教師です）、小動物には必ず吠えかかり睨み合うことで、その地方に於ける覇権を争うことにしている。

今回も多分に漏れず鳴谷神社に向かう前に、伊藤さん（だったかな）宅の白犬に吠えかかっておいた。犬は私の先制攻撃にたじろぎ、目を白黒させていた。

さて駅に向かったの帰り道、先の市川さん（だったかな）宅の白犬が、我々の前に姿を現した。首輪はしているものの鎖は繋いでいなかったようだ。

犬は我々の前になり後ろとなって、駅へと導いてくれた。先ほどの私との勝負、負けを認めたようだ。

しかし敵もさるもの、途中で小便をしたり大便をしたりと我々の威光を背に、自分のシマを拡げることも忘れていないようだった。

こういうのを共生関係と言うのだろう。

また途中、このあたりでは珍しいのか、自動車に轢かれそうになって、「田舎の犬は車ズレしていないから」と我々の失笑を買った。

## ☆ オバチャンありがとう

駅に戻った。三岐鉄道のなんとか記念テレカが売りに出されていたので、オバチャンに「くださいな」と申請すると、「すみません、売り切れですので、大安駅で買ってください。」とまことに申し訳なさそうに対応していただいた。

私はそんなに執着していたわけでは無かったので「いえいえ、無ければよいのです。」と答えた。

電車に乗り込んで発車まぎわオバチャンが走り寄ってきて、「大安駅に問い合わせたところ、向こうでも売り切れなので、すみません。かわりにこれをあげます」というような事を言われて使用中のテレカを貰った。ゆっくりとお礼を言う暇もなく電車の扉は閉まった。

全国65万の読者のみなさあ、  
西藤原駅のオバチャンは良い人ですよ！私もあと30年生まれるのが早かったら、こんな女性と結ばれたかった。キャ！

この項 終わり